

浄土宗方便山善立寺

香こうれん蓮

第 12 号

平成三十年盆号

echo[📶]

「臨床宗教師、それは病院で活動する宗教者」

龍興院副住職 / 臨床宗教師 大島慎也 (37 歳)
善立寺副住職 小路竜嗣 (32 歳)

巻頭 / 仏教メモ

木魚とインゲン豆の不思議な関係

おてらで使う楽器？

木魚とインゲン豆の不思議な関係

おてらで使う楽器？

法要では様々な楽器（鳴り物）を使い分けます。
今回はそんな鳴り物についてまとめました。



もくぎよ 木魚

木魚とインゲンマメを広めたのは同じ人

お寺と言ったら木魚！というイメージですが、
使われるようになったのは、江戸時代になってから。
実は最も新しい鳴り物です。

江戸時代、黄檗宗を開いたいんげん隠元禅師（1592-1673）
が日本に持ち込んだのが始まりです。いんげん隠元和尚、その名
の通り、インゲンマメも日本に持ち込み、広めました。

ぎよばん 魚板

おてらに吊り下げられたたい焼き？

魚板は木魚のもとになった、その名の通り魚型の板です。
本堂外などに吊り下げられ、起床時や法要など、時間を知
らせる合図として今も用いられています。

Q. なぜ木魚も魚板も魚がモチーフなの？

古来、魚にはまぶたがないため、眠らないと考えられお
り、勤勉や精進の象徴として用いられました。

口にくわえた球は煩惱を表し、背を叩くことで煩惱を吐
き出すという意味があります。



魚板

オーケストラで使われることも！

第二次大戦後、木魚は打楽器として西洋音楽にも取り
入れられました。

初めにジャズドラマーが使い始め、その後、オーケス
トラや吹奏楽などでも用いられるようになりました。
”木魚”ではなく、「テンプル・ブロック」、「ウッド・ブ
ロック」などと呼ばれています。



by Qniemiec

テンプル・ブロック

昔の名残りで吊下用の穴がついてます



ふせがね 伏鉦

お念仏といえは古来からこれ！

元々は吊り下げて使う鉦を
床に伏せて使ったことから「ふせがね」
と呼ばれるようになりました。
木魚が誕生する前から使われており、
現在でもお念仏を唱える際は伏鉦を使います。

しゅもく 撞木

特徴的な形からサメの名前にも…

鉦を打つ棒を撞木しゅもくといいます。
形がそっくりなシュモクザメの名前の由来です。



空也上人像

くやしょうにん 空也上人(903 ~ 972)

平安時代の念仏聖、空也上人が胸元に下げているのが鉦です。
上人はこの鉦を鳴らしながら諸国を行脚されました。
また、お念仏の一声一声が仏様の形になったという伝承から、
口から仏様が生まれている像が作られました。



撞木



シュモクザメの頭

きん 鑿

**ゴ〜ンという音には
メトロノームや音叉の役割が…**

鑿きんにはメトロノームのような役割があります。
打つ間隔により、お経を読むスピードを整え、大きな法要でも、お唱えが揃うようにします。

また、音叉のように、音程を確認することにも使われ、
ミヤソなどに音階が調整されている鑿きんもあります。



病院で活動する宗教者
それが臨床宗教師です

インタビュー



善立寺副住職 小路竜嗣 32歳
信州大学大学院工学系研究科卒
(株)リコーに入社。開発者として勤務
増上寺にて加行成満
大島上人とは修行道場の同期

大島慎也 (おおしま しんや)

1980年生 37歳
学習院大学法学部卒業後、
日本歯科大学にて歯科医師免許取得
大正大学大学院仏教学科修了
現在は僧侶として龍興院副住職
歯科医として家業の大島歯科医院
また、臨床布教師としての活動など
多岐に渡って活動を行っている

今

回のインタビューは前回に引き続き、東京都墨田区龍興院副住職、大島慎也上人です。

これまで宗教者が公立病院内で宗教活動を行うことは禁止されてきました。それが今、変わろうとしています。今回はその新しい活動「臨床宗教師」について伺います。

タブー視される僧侶

善立寺副住職小路 (以下、小路)

病院って、私たち僧侶をタブー視する場所ですよ。率直に言ったら、病院が協力していただけたことに驚きました。

龍興院副住職大島慎也上人

(以下、大島)

そうですね。病院とお坊さん、という組み合わせはタブー視されますね。私も大学病院に勤めている時、腕に数珠を付けていただけで上司に「外しなさい」と怒られました。

その一方で、キリスト教系病院ではチャプレン (院内牧師) が長年活動されています。

この臨床宗教師は日本型チャプ

レンを創立しようと、東北大学と各病院のご協力により行っています。

私は現在、地方のがんセンターで臨床宗教師として活動しています。

臨床宗教師とは

小路 臨床宗教師とはどんな活動をされているのですか。

大島 まず結論から言うと、具体的な布教活動は行いません。

患者さんから「あなたの宗派はどのような教えですか」と聞かれたら、浄土宗の教えは説明します。しかし、浄土宗を勧めることはありません。日本人が持つ漠然とした死生観や共通認識として「あの世」の話をすることはありません。

患者さんご自身のお話を聞いたり、私たち宗教者と対話をすることで、心を癒やし、安心していただけるよう活動をしています。

小路 なるほど。院内で生死について話し合えることそのものが革新的ですね。今の私たち僧侶は檀家さんがご自宅にいる頃は一緒に手を合わせたり、念仏を唱えるこ



とができます。
しかし、一旦、入院されると僧侶とお会いすることが難しくなります。
特に院内では生死について話すこと自体がはばかられ、本当に心の支えが必要なときに寄り添えない

いことに私も心苦しい思いをしています。
お話を伺うと、臨床宗教師がそんな現状を打破するきっかけになってくれるのではと感じます。

死は敗北なのか

大島 私は歯科医であり、僧侶であるのでよく思うことなのですが、
生きるときの道標がお医者さん。死ぬときの道標がお坊さんなのではと思っています。

今の医学は、なんとか生きながらえられるようになります。お医者さんは「病気に勝ちましょう」と言います。

しかし、私たちは最後には必ず死にます。生死を勝ち負けで考えると、私たちはいつまでも安心を得ることはできません。

死の救済

大島 死ぬことは本能的に怖いことです。末期ガンの患者さんのお話を聞くと、皆さん死が怖いとおっしゃいます。眠れなくなったり、「私が死んだらお父さんはど

うするのか」と家族が心配になったり。すると自然とあの世の話が出てくる。

「死んだ奥さんが枕元に立っていた。夢で死んだあとの世界をみました。」

というお話をよくされます。

そうすると、みなさんなんとなく安心されるんです。

死んで終わり、無になります。ではなく、死んだら次の世界があるということに私たちは安心する。

亡くなくても会えるんだ！という希望が見えてくる。それが医学では解決できないことであり、私たち宗教者にしかできないことだと思えます。

勝ち負けという価値観ではなく、死を受け入れて、幸せになる。そういうところに宗教の力があるんじゃないかなと感じます。

だから今伝えたい！

大島 だからこそ、生きているうちにお伝えしたい！いつも思っています。

お釈迦様は生きている私たちを



救うために仏教を遺してくれたんですから。

仏教はお葬式というイメージ以上に、これから仏教は様々な場面にアプローチできると思います。そして私たち僧侶ももっと活動の場が広がると思います。

おわり

（取材を終えて）

僧侶として、歯科医として、そして臨床宗教師として活動されている大島上人。取材中も活動について、熱意と優しさをもってお話しされる姿が印象的でした。これからも大島上人の活動に注目していきたいです。 副住職 小路竜嗣

方丈記の中に 鴨長明かもものちようめいが見た平安末期

養和の大飢饉（二一八一年）

（中略）

また、たいそうあわれなことがあった。

愛する相手をもつ男女が、その想う心が深い方が必ず先に死ぬのだ。その理由は、自分のことを後にして、ごくまれに手に入れた食べ物、想う相手に譲ってしまうからだ。

従って、親と子供では決まって、親が先に死ぬ。また母親が死んでしまっているのに、それとも知らないであどけない子供が母親の乳房に吸いついているのもいる。

法然上人と同じ時代を

生きた鴨長明

鴨長明が著した方丈記には平安末期に起きた自然災害が数多く記されています。その中の一つ、養和の大飢饉は一八一年に起きた。この年は干ばつや洪水などが重なり、都は想像を絶する大飢饉に見舞われました。

飢えた貴族が金を売りに出しても買う者はおらず、同量の粟の方が値が高くなったと言われています。

都の惨状を哀れみ、仁和寺の僧侶たちが死体を見る度に、その額に成仏できるよう、「阿」の字を書き、その数を数えたところ、2ヶ月で4万2千人にもなったそうです。

まさにその頃、富を持たなくても、どんな悲痛な最期であっても、お念仏を唱えれば、阿弥陀仏に救われ、極楽に往生できると説いた法然上人が当時の民衆を中心に急速に広まった理由がわかります。

行って
きました

浄土宗大本山

こんかいこうみょうじ
金戒光明寺

法然上人が比叡山から都に下りて、最初に草庵を設けたのが金戒光明寺こんかいこうみょうじの始まりです。

元々は光明寺という名前でしたが、第8世運空上人が後光厳天皇に戒を授けた際に、「金戒」という名を賜り、以後、金戒光明寺と呼ばれるようになりました。

幕末には京都守護職、会津藩の本陣となり、現在でも戊

辰戦争で没した会津藩士の菩提を弔っています。

また、境内には「五劫思惟阿弥陀仏像」というアフロ頭の珍しい仏像があります。

これは阿弥陀仏が五劫という長い年月、人々を救う手立てを考えている様子を表現したもので、あまりの時の長さで阿弥陀様の髪の毛（螺髪）が伸び、アフロになっています。



塩尻仏教信和会主催 托鉢の御礼

善立寺住職

● ご協力ありがとうございました。

4月4日、塩尻仏教会主催の托鉢で、原新田・野村の皆様のお宅を回らせていただきました。

どのご家庭にも暖かく迎えていただいたと他のご住職方から御礼をいただきました。皆様ありがとうございました。

また、お待ちいただいたのに回ることができなかつた御宅がございましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。



● お花祭り法要について

5月12日、広丘吉田の高野山真言宗光明寺にて、お花祭りが執り行われました。

戦没者遺族会の皆様・塩尻市長様・当山総代様など、多数ご参加をいただき、お花祭りと戦没者慰霊法要、東日本大震災・熊本地震慰霊法要が併せて行われました。

そして、皆様から頂いたご浄財から、

- 社会福祉援護資金 20万円
- 東日本大震災義援金 20万円
- 熊本地震義援金 10万円

が塩尻市長様に手渡されました。



● 南相馬市立小学校よりお礼のお手紙をいただきました

先日、当会宛に福島県南相馬市立小学校からお礼の手紙をいただきました。皆様から頂いた浄財と、温かいお気持ちは被災地にしっかり届けられ、復興に役立っております。塩尻仏教信和会では、今後もこの托鉢行を中心に、宗派の枠を越えて、社会に貢献する活動を行ってまいります。この度はご協力、誠にありがとうございました。

※次回、広丘・原新田地区にて托鉢を行うのは5年後になります。

また、その際のお花祭り法要は善立寺にて執り行う予定です。

平成三十年度 上半期の活動

修正会

1月7日、当山年始の法要、修正会（しゅしょうえ）を執り行いました。正月に修める法会から修正会と呼ばれます。大勢の皆様とともに、本年の平穩とご多幸を祈念致しました。

塩尻托鉢行

4月3日から11日まで塩尻仏教信和会主催、托鉢行を行いました。また、4月4日には野村・原新田の善立寺檀信徒の皆様のご自宅にも伺わせていただきました。いただきました浄財は5月12日の花祭り法要の開催費用として、また一部を塩尻市社会福祉協議会に寄贈いたしました。皆様の温かなご協力いただきましたこと、誠にありがとうございました。

関東ブロック

浄土宗青年会研修会

5月31日、松本ホテルブエナビスタにて関東ブロック浄土宗青年会の研修会が行われ、関東圏より200名あまりの青年僧が集まりました。当山法類の常照寺吉水上人が大会実行委員長を、当山副住職が事務局長を務めました。

寺内の安全設備追加

○本堂欄干の小児落下防止柵
本堂外の欄干の間が大きく、お参りにいらつしやうたお子様には危険ということで、欄干に柵を設けました。（写真③）
○会館内の段差軽減
これまで会館とトイレ間の経路に大きな段差があり、つまづかれたり、お足の悪い方にとっては辛い高さでした。今回、その段差に小階段と手すりを新設しました。制作は当山総代の小澤進様が行っていただきました。

おてらおやつクラブ活動

仏様にいただいた「おさがり」をひとり親のご家庭や施設、ごども食堂などにおすわける「おてらおやつクラブ活動」。奈良の浄土宗寺院から始まった活動が今、全国に広がっています。当山では皆様から頂いたお供物を長野県内のフードバンクにおすわけています。



①修正会



②托鉢の様子



③本堂欄干の落下防止柵



④トイレ前の小階段



⑤本堂階段前の小階段

本年の回忌法要早見表

1周忌	平成29年(2017)没
3回忌	平成28年(2016)没
7回忌	平成24年(2012)没
13回忌	平成18年(2006)没
17回忌	平成14年(2002)没
23回忌	平成8年(1996)没

※休日は混み合いますので、お早めにご相談下さい。

編集後記

先日、善立寺公式サイトを制作しました。そこでも記事をご覧いただけるように更新しております。ぜひ御覧ください。

仏教はとてもおもしろいです。この香蓮が仏教に興味を持つきっかけとなればと願い、今後も制作を続けてまいります。

副住職 小路竜嗣



善立寺公式サイト：http://zenryuji-jodo.com

平成30年7月1日

発行所 方便山善立寺 塩尻市広丘野村793-1
電話 0263-53-2645 発行・編集人：小路竜嗣